

令和8年度 第1回苫小牧市男女平等参画審議会会議録（概要）

- 1 日 時 令和8年7月3日(金) 15時00分～16時12分
- 2 場 所 苫小牧市民活動センター3階 講習室
- 3 出席者 審議会委員 7名
男女平等参画推進センター長
総合政策部協働男女平等参画室
(総合政策部長、室長、課長、主査、主事 計5名)
- 4 傍聴人 1名
- 5 記 者 2名
- 6 会議次第
(1) 開会 (2) 苫小牧市男女平等参画都市宣言文唱和
(3) 議事 (4) 閉会
- 7 議事概要

(議題1) 令和7年度苫小牧市男女平等参画基本計画(第3次)施策別実施状況について

事務局より、資料1について説明。

【質問・意見なし】

(議題2) 「女性から選ばれる職場プロジェクト」の進捗及び今後について
事務局より、資料2及び事前質問について説明。

【事前質問】

体験を通じて、その後の職場にどんな変化や改善がもたらされたか。具体的な成果を教えてほしい。(例えば体調不良者への配慮としてお互い助け合える職員が増えた、男女共に体調不良を遠慮なく申出できる職場環境になった、等)

【事前質問回答】

まだ実施してから1か月であり、他部署における具体的な変化などは聞かれておりませんが、当室では、会議が1時間以上に及ぶ場合、トイレに行く時間を確保できるよう定期的な休憩を挟むようにしたほか、毎日課内で3分程度の朝礼のような時間を持ち、体調や個人の業務量を確認するなどの取組を始めて

おります。こうした配慮ある取組が広がる方法について、当室の試行を発信するなど検討してまいりたいと思います。

【事前質問に対する意見】

会議のトイレ休憩や朝礼時の体調確認など上司から働きかけることで言いやすい環境が作られると思いました。

（議題３）第４次男女平等参画基本計画に関する調査概要

事務局より、資料３について説明。

【質問１】

調査はランダムで不特定多数の方々にお聞きする形ですか。また、若年層調査でWeb回答のみと説明がありましたが、携帯電話を持っていない家庭の方などがWebで回答することができるのか気になりました。

【事務局回答】

市民意識調査については、男女比の均衡を図った無作為抽出を実施いたします。また、小学生調査では５年生を対象としておりますので、１人１台与えられているタブレット端末を活用し、各学校の協力のもとで円滑に回答できるよう各校に依頼してまいります。

【質問２】

「ＬＧＢＴの生きづらさ」及び「生理」に関する設問対象を中学生以上に限定した意図を伺います。性自認の自覚は幼児期や小学校低学年から生じ得ること、また生理も高学年で教育が行われる中で、あえて対象を中学生以上とした理由を教えてください。

【事務局回答】

ＬＧＢＴ及び生理に関する設問の対象を中学生以上とした理由は、前回調査を引き継いだものでございます。委員からの「より若年層の実態も把握すべき」との趣旨を踏まえ、小学生を対象に加えることについて検討してまいります。

【質問３】

調査対象が、小学５年生や中学２年生といった特定の学年に限定されていますが、その選定理由が不明確であると感じます。

市民意識調査において男女比の均衡を図った無作為抽出を行うのであれば、若年層においても、小・中・高校生の各層から幅広く、かつバランスよく抽出

する方が、望ましいのではないのでしょうか。

【事務局回答】

若年層調査の対象学年の設定については、極めて高い回収率が見込めることから、500人程度の抽出でも一般調査と同等の有効回答数を確保できる見込みでございます。また、本市の諸計画との整合性や学校現場における事務効率の向上、さらに過去の調査結果との経年比較を可能にするという観点から、慣例的に小学5年生と中学2年生を対象としております。なお、当該学年を選定した詳細な根拠については、確認できておりません。

【質問4】

DV被害時の相談状況や相談窓口の認知度について、これまで調査項目に含まれていなかった理由はありますか。また、今回項目を追加することになった経緯についてもお聞かせください。

【事務局回答】

前回調査で項目が不足していた詳細な経緯については確認できていませんが、今回はDVの実態をより正確に把握し、実態に即した効果的な施策を展開するため、より踏み込んだ内容へと項目をブラッシュアップいたしました。

【質問5】

Webの特性を活かせば、市内小中学校の全児童生徒を対象とした調査も可能ではないのでしょうか。過去の調査との継続性についても、収集したデータから特定の学年のみを抽出して分析することで、経年比較は十分に可能です。システム上の制約や予算面での課題があることは承知しておりますが、前向きに検討していただきたいです。

【事務局回答】

教育委員会とも協議が必要になることかと思いますが、調査で協力を依頼するからには、回答データをどのように施策へ反映させるかという具体的な活用イメージを明確にする必要があるため、そうした点も踏まえ慎重に検討してまいります。

【質問6】

今回のWebフォームによる調査は、外部業者への委託を想定しているのでしょうか。また、対象拡大の可能性に関連して、1人1台のタブレット端末が小学1年生から全学年で配布・活用されている状況にあるか、改めて確認させ

てください。

【事務局回答】

アンケートの実施体制については、外部事業者の協力を得つつ、市が主体となって実施する予定です。低学年におけるタブレットの配備状況については、現時点で正確な情報を持ち合わせておりません。

【質問 7】

苫小牧市職員における介護休業制度の取得実績について伺います。現在詳細な数字等の把握が困難であれば、後日改めて回答をいただければと思います。

【事務局回答】

苫小牧市役所としては介護休業制度というのを整備しております。ただ、利用実態は把握しておりませんので確認いたします。

【質問 8】

意識調査における対象範囲の差異について伺います。「男らしさ・女らしさ」に関する設問は小中学生全員を対象としている一方、LGBTに関する設問を中学生以上に限定しているのは、どのような意図によるのでしょうか。

【事務局回答】

設問の対象区分については、令和3年の前回調査との経年比較を重視し、当時の設計をベースとしております。小学生には「学級委員長は男がいいか、女がいいか」など身近な例を、高校生以上には「社会や家庭での地位」を問うなど、発達段階に応じた聞き分けを行ってまいりました。

現在お示ししているのは検討案であり、LGBTに関する設問の対象拡大についても、他市事例の確認を含め事業者と検討いたします。ただ、設問増による回答者の負担や、得られたデータの施策への具体的な反映方法も考慮する必要があるため、それらを総合的に判断してまいります。

【意見】

回答の安定性や信頼性の確保から、個人差はあるものの、理解力や判断力が一定程度備わっている小学5・6年生を対象とすることが適切と考えます。

【質問 9】

企業実態調査の女性活躍について、共働きの場合、かつては夫の転勤で女性の方が仕事を辞めて夫に付いていたり、または単身赴任する場合は、女性の

方が一人で仕事と子育てを担うというのがあったが、今の時代になって、女性が働き続けられるような支援や理解など、企業の考え方に変化があるのか、設問としてどういう聞き方が良いか、いま具体的には言えないが、考えていただけるとありがたい。

【事務局回答】

趣旨に沿った質問の内容と追加について、検討いたします。

【全体をとおして質問・意見等】

【意見】

転勤に伴う女性のキャリア継続の課題については、男性が優位と感じています。女性が仕事を辞めてついていくか、別居生活となるか。この別居生活では、期間が長くなって離婚に至ったという話も聞きます。非常に重要な視点であると賛同しますので、設問化について前向きに検討していただければと思います。

ただ、あまり設問が多いと答える方の負担にもつながりますので、バランスを図りながら、調整していただければとも思います。

また運営面での要望として、委員名簿だけでなく、事務局側の役職・氏名も記載した名簿の配布をお願いいたします。

【意見】

資料1の21ページ施策番号39「ひとり親家庭の支援」に関連し、ヤングケアラー問題への対応についてお願いしたいです。経済的困窮や物価高騰を背景に、家事や家族のケアに追われ、学業や生活に支障をきたす子どもが増えてきています。相談を受けた教職員が迷わず適切な関係機関へ繋げられるよう、常日頃から、相談窓口の情報を掲載したパンフレットやポスターの配布・掲示などを通じ、相談先を周知・発信し続ける取組をしていただきたいと思います。

【事務局回答】

現在、市が策定中の「こども計画」における調査で、ヤングケアラーに関する設問も用意されています。こうした調査により実態把握する中で、こういった施策展開ができるのか、担当部署の方で検討されることと思います。いただいた御意見については、ヤングケアラーを担当する部署とも共有させていただきます。

【事務局】

アンケート調査については、9月の発送前に確定した設問項目を委員の皆様へ改めて御案内いたします。現時点の市民アンケート案でも既に16ページを超えるボリュームとなっており、回答者の負担軽減と必要な情報収集のバランスを慎重に見極める必要があります。いただいた御意見を踏まえ、設問の精査を進めてまいりますので、御理解いただければと思います。